社会科概念探求学習の発展（3）

ー多面的見方の育成を中心にー

小山　直樹*

The Development of Concept－Inquiry Learning in Social Studies (3)

－centered on the training for many-sided view －

KOYAMA, Naoki*

1．はじめにー研究課題の所在ー

本稿は、社会科概念探求学習論の立場から構成し、実践した中学校社会科地理的分野の授業「アメリカのイラク攻撃」（鳥取県八頭郡河原町立河原中学校大石隆弘教諭指導、1998年9月）の報告である。今回は概念探求過程における多面的見方の育成に焦点化して報告する。その理由は以下に述べる通りである。

社会的事象・出来事に対する「多面的見方」育成の必要性はこれまでも多くの社会科関係者から再三提案されてきたが、2002年度から実施されている現行中学校社会科学習指導要領（以下、現行要領と略す）と教科書を前にしたとき、新たな必要性が浮上していると言えよう。

現行要領は指摘されているように形式主義的な調べ学習の導入を一つの特徴とし、本来はワン・セットで考慮すべき調査の内容的な側面を大きく欠落させている。その端的な結果が平成14年度から使用の地理的分野の教科書記述内容である。一方、現行要領は必要最低限の指導内容基準を示すものであり、クラスの実態に合わせてそれ以上の内容指導も可能となった。このように社会科授業を取り巻く環境が大きく変化したのであるが、それは本来の社会科授業、すなわち概念探求型授業の本格的な実施を可能にしてもいる。調査活動や研究活動を学習方法として組織し、概念的知識という知的内容を発見、創造する楽しさを味あう授業こそが生徒たちに歓迎されよう。

では、形式主義的にせよ調べ学習を求められる生徒たちに対してどのような指導から開始すべきなのか。それは「験証」能力につながる「多面的見方」の指導であろう。社会科に限らずこれまでの科学教育は、ややもすれば「仮説ー検証」型に陥りがちであった。一つの正解を求める正答主義に走りがちであった。ここに、徹底的な「多面的見方」指導が必要な理由がある。

なお、本稿は拙稿「社会科概念探求学習の発展（2）ー『地域』認識指導を中心にー」に引き続いてグローバルな地域認識の育成にもかかわる授業モデルの作成も含意している。

* 教育地域科学部教科教育講座

2．教材研究・教材解釈

大石実践は旧要領の下で行われたものである。旧要領も現行要領と同様に知的内容教科としては不十分なものであった。前述の拙稿でも分析したように個別的記述的知識の網羅的学習に留まるものであった。

大石氏はそのような状況の改善を目指して概念探求学習の構成に取りかかった。1997年度から鳥取大学大学院教育学研究科で現職院生として研究を開始した大石氏は、まずは自身のための学問研究としての教材研究を開始した。現代社会的事象・出来事の科学的説明を試み、試行錯誤の中で選択した問いは「なぜ、中国はアメリカのイラク攻撃に反対するのだろう？」という問いであった。ちょうど、長野での冬季オリンピックが開催される直前の国際情勢にたいする素朴な問いであった。新聞記事やテレビニュースでは「民族の主権侵害に反対する」「平和的解決を求める」といった建前的理由が報じられるのみであった。それらの理由には一理は有るものの、それ以外に本音の理由が有るはずであると問い続けた。しばらくして有力な回答に遭遇した。酒井啓子氏の論文「イラクはいま」（歴史教育者協議会『歴史地理教育』No.580、1998年7月号所収）がそれである。酒井氏は中国の本音の反対理由としてイラクの埋蔵石油の存在を指摘しているのである。（詳しくは後述する。）大石氏は早速、アジア経済研究所に酒井氏を訪ね、研究成果を尋ねた。するとその成果は、酒井啓子氏編『イラク・フセイン体制の現状ー経済制裁部分解除開始から一年ー』アジア経済研究所、1998年1月29日発行）として、武力攻撃危機の直前に出されていた。(注1)

この段階に至り、マスコミ報道では知り得ない専門家による最先端の解釈は入手できた。メイン・クエッションーメイン・アンサーの主軸はこうして固まった。

次の課題は、この主軸を含む多面的見方育成過程の構成である。1年生の地理的分野の学習は世界を大観する学習を終えて、世界の各地域の学習に入るところであった。世界各地域の学習指導計画は、まずは中国を、次いでアメリカ合衆国を取り扱うことになっている。そこで、3時間扱いの投げ入れ授業を構想した。まず、教材解釈の中心部分を紹介する。

それは酒井氏の研究成果に依拠するものであった。酒井氏が指摘されるように「イラク政府は1995年3月、国際石油会議を主催し、初めて制裁解除後の油田開発計画においてプロダクション・シェアリング契約（PSC）を行う用意があることを明らかにした」のであるが、PSCは石油輸出相手選別の政治的基準である。国連安保理においてイラクに擁護的な発言を行うロシアやフランスに対しては契約件数、量ともに多くし、「米国に追随して対イラク制裁解除に否定的であるとイラク政府が認識している国々に対して、圧力をかけるという意味あいを以て行われた措置」なのである。イギリスや日本が「輸出相手としてプライオリティーを低く置かれている」のはそのためである。イラクはロシアやフランスと同様に中国を「制裁解除後の開発計画に関与させることで、制裁解除をイラクの利益だけではなくこれらの石油輸入国の利益にも転化した」のである。PSC方式による油田開発への参加か排除かという、いわばアメとムチを駆使してイラクは世界各国と渡り合っているのである。それがイラクの外交戦略なのである。

なお、酒井氏によればロシアとフランスがPSCに積極的な理由には対イラク債権回収への期待もあると言う。「イラン・イラク戦争中に返済不能となったイラクの債務（武器輸出代金ー小山注）が、将来的に石油で返済されることを期待してのことである。一説によれば、ロシアの債権は160億ドル、フランスが100億ドル、中国が50億ドルと伝えられる」と。中国の場合、高度経済成長を睨んだ原油確保と合わせて債務返済への期待も考えられる。ロシアやフランスのイラク攻撃反対理由に

関しては日本のマスコミも長野五輪の数ヶ月後にはようやく報道した。

次に実験授業の学習指導案を紹介する。

＜実験授業の学習指導案＞

一　単元名　「外交戦略」
二　単元の目標　外交戦略の実態にせまる
三　単元の構成　中学校社会科地理的分野（計３時間）
　導入部　「アメリカのイラク攻撃」
　展開部　「中国の強い反対」の真相を石油事情からみる
　終結部　「中国の強い反対」の真相を石油事情以外からみる
四　到達目標
　概念的知識　：外交戦略はその国の国益を守るためのものである。
　・中国は石油輸入の確保を目的としたので、アメリカのイラク攻撃に反対した。
五　単元の展開

	発　　問	資料	教授・学習活動	生徒から引き出したい知識
導入	1、これは何の写真。 そうですね。長野オリンピックでは、原田選手のジャンプなど、はらはらどきどきしながら見ましたね。この時期、競技そのものを妨げるのではないかと心配させる出来事が世界を覆っていました。 さた、何でしょう。	①		・長野オリンピックの写真だ。 ・何だろう。 ・戦争があったのでは。 ・テロ事件があったのでは。
	・開会式での、サラマンチ国際オリンピック委員会会長の記者会見と出来事に関する新聞記事をヒントにして考えてみましょう。	②		・戦争が起こりそうな状態だったのでは。 ・アメリカとイラクの戦争では。 ・アメリカがイラクを攻める。
	2、そうです。アメリカによる「イラク攻撃」です。		板書：アメリカの「イラク攻撃」	
	1990年8月　イラク軍、クウェートに侵入する 国連がイラクの貿易を制限する 1991年1～2月　湾岸戦争がおきる 国連がイラクの大量破壊兵器の貯蔵、製造を禁止し査察を義務づける 1997年6～10月　イラク、国連の査察を拒否 1997年10～98年1月　アメリカ、「イラク攻撃」を強く表明			
	・イギリスなどアメリカの方針に賛成する国もありましたが、反対する国もありました。なかでも中国は強く反対しました。 なぜ、中国は強く反対したのでしょう。			・平和が大切だから。 ・アメリカがきらい。 ・ほかの国に認めてもらいたい。 ・イラクと約束があるのでは。 ・戦争に巻き込まれるのがいやだった。
	・中国政府の発表した理由を見てみましょう。	③	板書： ｱﾒﾘｶ　⇒　ｲﾗｸ 反対↑　↑協議 中国	・平和的解決を望む。 ・人権問題である。 ・民族の尊厳を大切にしよう。
	・平和、人権といったことだけが理由でしょうか。次の時間までに自分で調べてみましょう。家族に聞いてもいいですよ。			・２カ国だけ反対している。（フランスとロシアは途中から賛成に。） ・平和的解決を望む。 ・人権問題である。 ・民族の尊厳を大切にしよう。
展開	3．自分で調べてわかったことは。			・よくわからない。 ・石油が関係しているのでは。 ・核実験が関係あるのでは。 ・武器の輸出をしているのでは。
	・この質問に答えるためにはどのようなことを調べたらよいでしょうか。			・中国とアメリカの関係。 ・中国とイラクの関係。
	・関係を見るときに具体的に何に注目しますか。	④		・貿易。代表者の言動。
	・では、貿易や代表者の言動に注意して年表をみてみましょう。 中国とイラクの間にはどのようなつながりがありますか。			・中国はイラクと契約しているようだ。 ・中国はイラクから石油を輸入しようとしている。 ・イラクの副首相が北京を訪問している。 ・中国の企業がイラク南部で、油田の開発をする契約を結んでいる。 ・事件の数ヶ月前だ。

展	・石油に関係がありそうですね。地図帳を見て予想できることは。	⑤	板書： 中国←石油ーイラク	・イラクに油田がある。 ・イラクでは石油がたくさん採れるのでは。 ・ペルシャ湾岸は油田地帯だ。
	・どんな資料があればよいだろう。			・イラクや中国の石油生産量がわかればよい。
	・まず原油産地を見てみましょう。	⑥		・ペルシャ湾岸の生産量が多い。 ・中国にも油田がある。
	・96 年の生産量、埋蔵量と 89 年の埋蔵量を見て気がつくことは。	⑦ ⑧	「石油」と「原油」の解説	・中国は 89 年には世界 4 位だ。 ・中国は 96 年の埋蔵量には名前が上位にない。 ・イラクは 96 年の埋蔵量が世界 2 位だ。 ・中国にも油田はある。96 年の生産量は世界 5 位だ。
	・イラクは経済制裁で生産量は少なくなっているけど埋蔵量が多いね。中国の原油生産量は世界 5 位だけど、なぜイラクで石油を掘るのでしょう。予想できることは。			・石油が不足しているのではないか。
開	・中国の石油について調べてみましょう。	⑨		・生産量より消費量が多くなっている。 ・差がマイナスになっている。 ・足りないから輸入しなくてはならない。
	・石油が必要なのにだんだん足りなくなるんだね。その足りない分を外国に頼らなくてはならないんだね。			
	・なぜ、中国は「アメリカのイラク攻撃」に強く反対したのか、ノートに書いてみましょう。			
終	4.「なぜ、中国は強く反対したのか」発表してみましょう。		板書：外交戦略	・イラクは埋蔵量も多く、これからも安定して不足する石油を輸入できるから。 ・契約を結んだばかりだったから。 ・平和だけでなく、石油のこともあった。
	・中国とアメリカの関係はどうでしょう。	④		・中国の国家主席がアメリカに国賓として招かれている。 ・アメリカのクリントン大統領が中国を訪問している。
	・中国とアメリカは友好的なのに、なぜ中国は強く反対したのでしょう。石油のことだけで反対したのでしょうか。			・存在価値をアピールしたのでは。 ・石油が無いとかなり困るのでは。
結	5. 地理の学習はこのように地名を覚えたり、特産物を調べたりすることだけではなく、政治や歴史や経済のことを調べながらいろいろな見方、考え方を身につけていく学習です。			

＜資料＞
① 長野五輪写真集
② サラマンチ IOC 会長の記者会見記事（信濃毎日新聞 98.2.6 より作成）
③ 中国外相のコメント（朝日新聞 98.2.6 より作成）
④ 中国、イラク、アメリカ間の外交（98 世界年鑑より作成）
⑤ 西アジア地図（中学校社会科地図：帝国書院）
⑥ 世界の原油産地（日本国勢図会 98/99）
⑦ TP 96 年原油の生産量、埋蔵量（世界国勢図会 98/99）
⑧ TP 89 年原油の生産量（世界国勢図会 91）
⑨ 中国の原油生産量、消費量：実績と見通し（アジア・エネルギービジョン：資源エネルギー庁より

3．授業の実際と多面的見方の育成

計三時間の授業記録を概念探求型学習指導案形式で以下に紹介する。

大石実践記録分析表（第一時）

問い	資料	生徒の認識（回答）
SQ1　これは何の写真ですか？	資料①：長野オリンピック写真集	・原田選手、船木選手、里谷選手、清水選手らが写っている。長野オリンピックの写真だ。
SQ2　実は長野オリンピックの時、大会を中止せざるを得ない状況がありました。開会式の挨拶の中にもそういう言葉が出たり、大会前に橋本首相が「大会が中止にならないように配慮して欲しい」と世界に向けてアピールする状況がありました。何が起こっていたのでしょうか？		・核実験。テロ行為。自爆テロ。戦争。
SQ3　戦争が起こったら選手たちの中には帰国せざるを得ない人も出るから大変だね。具体的にどこで何が起ころうとしていたか、新聞記事で見てみよう。 オリンピック組織委が運営します。会長はサラマンチ氏。会長挨拶の中に不安が出ています。前日の記者会見の記事です。	資料②：サラマンチ会長の記者会見記事	
SSQ3-1 どこで何が起こった？		・イラクという国名。大量破壊兵器。戦争。
SSQ3-2 具体的にどういう戦争？どこの国が何をしようとしている？		・アメリカがイラクに攻撃を仕掛けるのではないか。
SQ4　今日、みんなで考えてみようと思っているのは、こういう出来事なのです。アメリカがイラクを攻撃しようとしていたんですね。空爆しようとしていた。 SSQ4-1 空爆ってわかる？ SSQ4-2 最新鋭のミサイルってどんなのか知っている？		・爆弾を落とそうとしていた。ミサイルを打ち込もうとしていた。
T　アメリカがなぜイラクを攻撃しなければいけなかったかということですが、理由は・・・ イラクが大量破壊兵器をたくさん持っているのではないかという疑いがあった。国連が禁止しているのに無視して作っているらしいので調査員を派遣したのにイラクが調査を強硬に拒否し出した。		
SSQ4-3 大量破壊兵器って？		・核兵器、毒ガス、ミサイル、生物兵器。
T ＜湾岸戦争とそれ以後の経過の説明＞ 話しは少し戻るのだけれども、8年ぐらい前、そもそもの発端はイラクがクエートを予告無しに攻めたんです。1990年8月2日のことでした。 ・地図帳 PI～P3、イラクわかる？ ・P33 の拡大図を出して。 イラクのフセイン大統領が命令を出して攻め、居座った。昔はイラクの一部ということもあって。国連は「おかしい、撤退しなさい」と言ったけれど応じなかった。それで 91 年 1 月 16 日までに撤退しなければ軍隊を出して、強制的に排除すると突きつけた。1 月 16 日未明に国連軍（多国籍軍）――一番多かったのはアメリカ軍――はペルシャ湾に空母や航空機を投入して攻撃を始めた。これを湾岸戦争と言います。国連軍は圧倒的な兵力で攻撃し、2 月 23 日にパウエル統合参謀	地図帳	

	本部長が攻撃を停止し、短期間で停戦した。クエートからは僅か2日で追い出し、巡航ミサイルでバグダッドなどを攻撃した。（巡航ミサイルの解説） 　イラクは国連から罰を受けた。経済的制裁で貿易も禁止された。一般兵器の廃棄や核兵器を作ろうとしていたがこれも廃棄させた。6年ぐらい経ち、また作っているらしいとの情報が国連に入った。それが昨年だった。作ったらダメという約束で停戦したのに。昨年6月ぐらいから査察員が入って調査していた。査察員に対して嫌がらせを始めた。ヘリコプターの操縦桿を倒したり、建物への進入を拒否したり。10月、スパイ容疑でアメリカの査察員は出て行け、次に査察員全員に出て行けと言い出した。 　アメリカは単独でも戦争すると言い出した。そのピークに達したのが長野オリンピックの直前だった。クリントン大統領はオリンピックの最中でも攻撃すると言い出した。それぐらい緊張していた。 　イギリスのブレア首相は共同記者会見で賛成すると表明した。いくつかの国も賛成した。趣旨はよくわかる、賛成まではしないけれども気持ちはわかるという国も。日本はオリンピックがあるし、平和的に解決して欲しいとはいうものの、ハッキリと反対とは言わなかった。 　そういう状況の中で、非常に強くアメリカのイラク攻撃に反対した国がある。	板書：湾岸戦争以後の年表	・聞いたことがあります。
	数少ない。何ケ国？ 最初は3ケ国。だんだんと説得されてハッキリと反対したのは2ケ国。185ケ国の中で僅か2ケ国。中国とロシアが反対した。三つ目はフランス。	板書： アメリカ ⇄ イラク ↖ 中国	・3カ国、1カ国。
	MQ　なぜ中国はそんなに強くアメリカの動きに反対したのでしょう？ 新聞にはハッキリと理由が書いてあります。外務大臣の言葉に。	資料③：中国外相のコメント	
	SQ5　どういう理由？ T　新聞にはそうかいてあります。それを前面に出して反対しています。		・イラクの主権を守る。民族の尊厳を守る。人権侵害だ。平和的解決を望む。
	SSQ5-1　もっとほかに考えられる理由は？ T　三ヶ国関連図のここ（イラク－中国間）には何も書いてないね。ここを調べてみる必要があるね。「弱みを握っている」ということですね。 宿題です。なぜ強く反対したのか、何を調べたらわかるか、家の人に聞いてもよいから。自分で考えてきて下さい。		・中国とイラクの関係を見てみる必要がある。 ・イラクが中国に圧力をかけているのではないか。

大石実践記録分析表（第二時）

	問　　い	資　　料	生徒の認識（回答）
	SQ1 新聞記事での中国首脳の言い分は？平和、人権、民族がキー・ワード。もう少しこだわってみたい。調べるのに、何をどういうことに、だった？	板書： アメリカ ⇄ イラク ↖ ↗ 中国	・平和、人権、民族。 ・中国とイラクの関係。
	SSQ1-1 関係って？具体的には？		・貿易。アメリカと中国の関係。
	SSQ1-2 こちらは具体的には何を調べたらよい？		・人の関係。
	SSSQ1-2-1 どういう人？		・大統領や外務大臣。
	SSQ1-3 こちら（イラク－中国）はいらないの？国を代表するような人の動き。人と人の動き、品物と品物の動きですね。		・それも見たい。
	SSQ1-4 誰か調べた人は？ 先生が調べたことを出しましょう。 まず、中国とイラクの関係について見てみよう。	資料④（三ヶ国間の外交）	（無し） ・石油、油田に目がとまった。
	T　先生も作りながらアレッと思いました。二国間に石油にかかわることが数年の間に出てきています。そこに焦点を当ててみたいと思います。 中国の石油に関することと、イラクの石油に関することをそれぞれに違う状況があると思うので、それを見てみたい。次の資料です。	板書：中国－イラク 資料⑤⑥：西アジア地図、世界の原油産地	
	SQ2 石油の事情を知るのですが、上の図を見て下さい。世界の原油の産地です。原油＝掘り出したままのまっ黒い状態。どの辺で一番採れている？集中しているところは？地域別に見ると？		・ペルシャ湾周辺に油田の印が多い。 ・いたるところにある。クエート、イラン、イラクなどほとんどの国が油田地帯。
	SQ3 分布図の下のグラフを見て下さい。原油の生産量が左のグラフ、埋蔵量が右のグラフ、気が付くことは？		・イラクの埋蔵量が多い。 ・イラクは採れている量よりこれから採れる量の方が多い。 ・戦争が起こると中国の輸入に響く。
	SSQ3-1 中国は石油を輸入しているの？		・その辺はわからない。
	SQ4 戦争が起こると石油が止まるという可能性はあるかもしれないね。ほかに気が付くことは？		
	SSQ4-1 中国の石油については・・・ 残りが少ないの？ 結構多いね。		・生産量は世界で５番目に多い。
	SSQ4-2 中国はイラクとの間で石油についてどうしようとしているの？		・中国は石油をイラクから輸入しようとしている。
	SSQ4-3 どういう言葉からそう思った？ 「イラクの石油」ってどこでわかる？ 「輸入しようとしている」ってどこでわかる？		・「イラクの油田開発」という言葉から。 ・「開発契約を結ぶ」という言葉から。 ・「石油の分与協定を結ぶ」という言葉から。 ・アジズ副首相が北京に行っている。
	SQ5 イラクの石油を掘って輸入しようとしていたのだね。そういうことが近年あったんだね。昨年はすごいでしょ、中国の動き。何か予想できることは？		・中国は石油が無さそうだ。
	SSQ5-1 何でわかる？ それから？		・カザフスタンの石油会社の株を取得し、パイプラインを作る事業に合意。 ・ベネズエラの石油採掘権を取得。 ・イラク。

	SQ6 中国はどうも色々な国と石油にかかわる契約をしているね。本当に中国は石油が足りないのだろうか？生産量は世界５位だよ。		・輸入している。
	SSQ6-1 それがわかる資料はない？中国が石油で困っている資料は。先生が調べてきた資料を配ります。	資料⑨：中国の原油生産量、消費量；実績と見通し	＜「石油」と「原油」の板書解説＞ 石油 ― 原油（掘り出したままの油） ↓精製 石油製品 ― ナフサ（繊維、ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ、発泡ｽﾁﾛｰﾙなどの原料） 燃料（ｶﾞｿﾘﾝ、重油、軽油、灯油）
	SSSQ6-1-1 中国が輸入しようとしているのは？		・原油。
	中国の85年から５年おきぐらいの生産量と消費量を比べて、右側に余った量を見てみました。 そうです。中国だけで採れたもの。中国にも油田があります。		・生産量とは中国で採れたものですか？
	T 「差」に注意して下さい。94年からマイナスになっている。2010年にはマイナス１億3100万トンになると予想。この量は、今生産している量と変わらない量。それと同じくらい足りなくなる。今の日本が輸入している量の半分ぐらいの量。 これから考えると中国の石油事情には相当厳しいものがあります。これから石油が必要になるのに、自分の国で生産できる量には限界が見えている。中国にとって石油というのはかなり重要な意味を持ってきそう。		
	SQ7 今、日本で石油輸入がストップしたらどうなる？		・ストーブ、車、風呂・・・ダメ。
	SSQ7-1 冷暖房がダメになったらどうする？ 発電に使っている量が多い。節約、節約です。テレビ、ラジオ、１日１時間なんてことに。 生活に影響を与えるね。 今もう、中国では石油を輸入しています。なおかつ足りなくなるのですよ。それを考えると中国は石油については相当神経を使わなければならない。		
	SQ8 中国が「アメリカのイラク攻撃」に強く反対した理由、これ（平和、人権、民族）もあるかもしれないけれど、他にどんなことが挙げられる？		・原油が輸入できなくなるかもしれないから。
	T これから油田の開発をするのだから今年や来年ということではないけれど、これから先々困るであろう、原油が届かなくなる可能性がある。 埋蔵量世界２位のイラクからこれから輸入しようとしているのに、それができなくなるかもしれない。12億人の人々の生活の色々な部分にかかわる原油を確保するためには、中国とイラクの関係を大事にしなければならない。ただ人権だ平和だと言うだけではなく、国と国のつながり、これを「外交戦略」と言いますが、国と国の駆け引きだね。 政府の人たちはこんなことを表明したらどうなる？「うちはイラクと原油のことでやっているから戦争はやめてくれよ」なんて。	板書：外交戦略	・アメリカが怒る。

	SQ9 言えないでしょ。表立って。タテマエとホンネ。そんなことを世界に向けて言ったら中国はどう思われる？ T 権威が無くなってきますね。こういう（平和、人権、民族）言い方で一応言っておく必要があるかもしれない。これも全く無い訳ではないよ、当然のことです。それにプラスしてこういう事情も実は考えられるということですね。 でも、これだけではないかもしれないよ。他の国ともやっていたじゃない。 MQ なぜ、中国は強く反対したのか、自分なりにまとめて下さい。この段階で予想できること、資料等からハッキリと説明できることとして「なぜ、中国はアメリカのイラク攻撃に反対したのか」まとめましょう。		・中国は自分勝手だと思われる。

大石実践記録分析表（第三時）

	問　　い	資　　料	生徒の認識（回答）
	T ノートに書いてもらっていますので発表して下さい。		・イラクから原油を輸入する契約を結んでいるが、戦争によって出来なくなってしまうから反対した。（複数名）
	SQ1 少し違うという人はいませんか？少し質問を変えましょう。戦争したとしても、終わったらまたできるんじゃないの？戦争が終わってからでもいいじゃないの？今はなんとかなっているんでしょ。5年か10年後がだんだん困る出すということでしょ。今、イラクから輸入しているかというと、今はまだ油田を掘っていないね。これから油田を開発して新しい井戸を掘って、そこから汲み上げた油の一部をもらいましょうということだったね。 なぜ、中国はそこまでイラクの肩を持たなければいけないの？		（困惑気味）
	SSQ1-1 契約したのは何月でしたか？		・昨年の6月。
	SSQ1-2 まだ契約でしょ。昨年のいつ問題が起きたの？		・昨年の10月。
	SSQ1-3 中国が気を使った点とはどういう点ですか？推測だけどね。		・攻める側にまわると契約しているのに何だお前はと言われる。
	T 石油の施設そのものが壊れるとかというよりも、輸入できなくなる理由として一番恐いのはイラク自身が中国との契約をやめたと言うことですね。あの契約はやっぱり破棄するとやり出したら。中国は契約をしていながら戦争をする方に賛成するなんて到底言えないですよね。 君たちの指摘した理由に少し肉付けをして、輸入できなくなるのではないかというのは、むしろイラクが中国に対して契約を拒否する、破棄してしまう状況が出てくることを恐れたということですね。 中国としては石油を確保しておきたいという思いが前面に出ている感じがします。こういうのを昨日も言いましたが「外交戦略」と言います。そこでは平和、人権、民族ということを理由に		

	して駆け引きする。今回の場合は国のエネルギー源である石油をいかに確保するかということを最優先したのではないかという感じが見えますね。 新聞記事をサッと読んだだけでは見えてこない、それ以外の幾つかの、国を代表する大統領とか、国家主席、外務大臣がどのような動きをしているか、日本なら会社が外国の人とどのような契約をしているのか、そういうところを見ていくと、色々な理由が見えて来ます。「外交戦略」は難しい面もありますが、こうやって色々と見てくるとみんなでもわかるじゃないですか。 地理の勉強とは、今回少しやったように、地名をどうのこうのと、それも必要だけれども、政治のこと、歴史的なこと、石油って経済のことだとか、いっぱい色々な条件があって社会の動きそのものを実は勉強しているってことなんだね。大きくなって社会に出ていく時、ただ一つのこういった（平和等）理由だけにとらわれるのではなく、待てよ、何か違うことがないかな、何か他に理由がないだろうかな（石油等）と違った見方で一つのものが見えるかどうか。歴史でも言いましたね。何か遺跡が出てきた時、鳥取県の新しい遺跡で銅鐸が出たね、次々に新しい発見があって新しい見方を始めなければいけない。イメージはどんどん変わっていく。地理も一緒です。一つの社会の出来事に対して色々なところから視点を当てて見てみましょうということです。 SQ2 さて、ところで、本当にこれ（石油）が中国が反対した理由でしょうか？ 96年から98年の年表を見て下さい。中国とイラクの関係を見てきたね。もう一つ見ておかなければならない関係があったね。 SSQ2-1 中国とアメリカはどのような関係ですか？ SSQ2-2 10月って何があった？ T その時に公式に招き、来年の訪中を約束しているんだね。 SSQ2-3 ということは、中国とアメリカってどんな感じ？ MQ 友好的な感じですね。なのになぜ、中国は反対しなければならないの？ここまで仲が良かったら、むしろ賛成した方が当たり前じゃないの？アメリカと友好的な関係を作ろうとしているのに、なぜあえて中国は反対したのだろう？これ（石油）だけでは説明できないと思います。石油がいくら欲しくてもアメリカとの友好的関係を保とうと思ったら・・・みんななら どうする？中国の代表者だったら。 どうも調べてみると、中国内部でも分かれているようです。石油優先派と、反対は言わないまでも黙っていたら良いのでは、どっちにひっついて良いかわからないという人と、やっぱり大国アメリカに賛成しておかないとという人と、分かれていたようです。		・アメリカと中国の関係。 ・アメリカの大統領が中国を公式訪問している。クリントン大統領が昨年10月に国家主席を招待している。 ・イラクが査察団に国外退去を命じた。 ・仲が良い。 ・挙手ー石油が大事、考えて迷う、戦争賛成の三等分に別れる。

	その中で、なぜ強く反対を表明したのでしょう？		・中国が完璧にイラク側につくと、イラクの仲間だと思われて、アメリカを敵にまわすことになるから、アメリカと良い関係を持っておいて、理由をつけて反対した。
	T こういう（平和等）理由ですね。これ（石油）は出さずに。バランスですね。		
	SQ3 もうちょっと違うところにも何かありそうです。あえて中国がアメリカとの関係もうまくしながらハッキリと反対の意思を表明するってことは？君たちの友達関係ならどうする？本人同士の関係だけ？ただイラクのこと？アメリカのことだけ？		・周りのことも。
	SSQ3-1 中国、イラク、アメリカだけじゃない。世界の多くの国のことも考えたのでは？中国をどう見るかも意識しているのでは？		
	SSQ3-2 石油契約、他の国とはどことしていた？		・カザフスタンやベネズエラと。
	T 他にも石油が採れる国があるじゃない。するとそういう国に対しても影響を与えると考えるはずです。答えは今日はありませんが、まだ他に考えられる理由があるのではないか。中国のためになるかどうか、自分の国のためになるかどうか、「国益」になるかどうか考えているから。石油って理由はよくわかるね。それ以外に何か国の20年、30年後を見つめて考えている可能性もあるよね。 これから中国、アメリカの勉強をしていくけど、その中で何か新たな理由が見つかるかもしれませんね。		

第一時は、1990年のイラクによるクエート侵攻、1991年の湾岸戦争、そして1997年10月～1998年1月におけるアメリカのイラク攻撃表明に至るまでの情報提供と、「なぜ、中国はアメリカのイラク攻撃に反対したのか」というメイン・クエッションを成立させることが主な内容である。教師主導での説明が多い。多面的見方の育成に関しては、次時への伏線でもある「アメリカ－イラク－中国の三ヶ国の関係図」の読み取り場面が重要である。SSQ5-1に対する回答は予想以上に鋭いものであった。大石氏の板書内容がこのような質の回答を引き出したと言えよう。

第二時は、第一時の宿題から開始した。僅か一日の時間的猶予、メディア・文献等の入手可能性の低さなどが影響して、生徒たちによる独自の調べ学習には限界があった。また、保護者を含めて石油理由説という専門的な回答など知る由もなかった。そこで、三ヶ国関係図を使用して何を調べたらよいのかから入り、大石氏が準備した資料の読み取りへと展開した。生徒たちは中国とイラクの関係を石油に絡ませて理解していった。そして、最後の段階でメイン・クエッションが提起され、ノートに回答を書き込んだ。多面的見方の育成に関しては、SQ8に対する回答と、それに続く教師発言が重要である。さらには、MQにおける「この段階で予想できること、資料等からハッキリと説明できることとして」という言い方が重要である。前者については第三時の冒頭に続くので後述する。後者はMQに対するMAである石油理由説が酒井氏らの研究に裏付けられて現段階では最も説明力の高いものであり、概念探求学習ではそのような条件を自覚した上で発見、習得させる訳であるが、その際には上記のような言い方が不可欠となろう。換言すれば、説明力は多少低くても他に幾つかの理由が存在するかもしれないことを意識的に指導するのである。

第三時は、ノートに書いた理由の発表から開始した。最初に女子生徒から前時の学習内容を整理して石油理由説に肉迫する長文の回答が示された。肉迫するとは、要約すれば分析表にも有るように「イラクから原油を輸入する契約を結んでいるが、戦争によって出来なくなってしまうから反対した」という回答と同じレベルに留まるものであるという意味である。大石氏は瞬時に質問を変えた。SQ1である。生徒たちは厳密なレベルでの石油理由説に達していなかったために困惑していたが、SSQ1-1～SSQ1-3により正確な事実的知識を踏まえることで直後のT発言を了解していった。大石氏の指導はさらに続いた。三ヶ国関係図と年表に立ち返り、アメリカと中国の関係が未確認であることに気づかせた。さらには、世界は三ヶ国だけで動いているのではないことから他の理由もあり得ることに気づかせた。最後には、これから始まる国別学習（中国、アメリカ）の中で更に新たな理由が発見される可能性に言及した。このような多面的見方の指導により、石油理由説もタテマエ的理由を加味したものに膨らんでいったのである。

4．おわりに－授業の反省と課題－

大石氏本人による授業の反省は次の3点である。①単元を通じて生徒の知的好奇心を保持しつづけるような動機付けができなかった、②単なる地誌学習、系統地理の学習に終わらず、社会を構造的、総合的に見る授業となったが、まだ概念注入に終わっている、③外交戦略に関する概念抽出が不十分である、と。

しかしながら、この自評は必ずしも的を射たものではない。授業をビデオテープで検討した限りでは、③は妥当な自評である。確かに「外交戦略」や「国益」に関する学習内容は希薄であった。しかし、①と②に関しては正反対の評価をしたい。今だ「社会を構造的に見る」学習には成り得ていないし、外交戦略に焦点化する場面も中途半端であった。教材研究の深さの割りには酒井氏らの研究成果の取り込みも不十分であった。それに反して視点の転換が何度も試みられて、そのことが結果として生徒たちに開かれた探求の楽しさを味合わせていると言えよう。概念注入には陥っていないのである。生徒たちの感想文を見ても通常の地理の授業と異なり「難しいけれども面白い、楽しい」授業、考える授業であったと受け止められている。生徒たちの発言回数・量は少なかったが、極めて高い集中が認められた。(注2)

以上のような反省と評価に基づく時、筆者らに課せられた課題は構成概念「外交戦略」のもとで当時のマスコミでも報じていない社会的事象・出来事の起因を専門研究者らの説明を主軸にしながら、それのみを単線的に探求するのではなく、複数の見方の可能性を確保しながら「より科学的な説明」として暫定的に受け入れる教授・学習過程の創出であろう。大石氏との共同研究は実験授業後にも続き、教授書試案の作成を行った。さらには、2002年現在のアメリカの対イラク戦略、とりわけロシア原油を巡るアメリカ外交戦略の新たな局面とロシア・フランス等の対応模様を加味した教授書試案改訂版の作成も視野に入れている。それらの報告は稿を改めて行いたい。

＜注＞

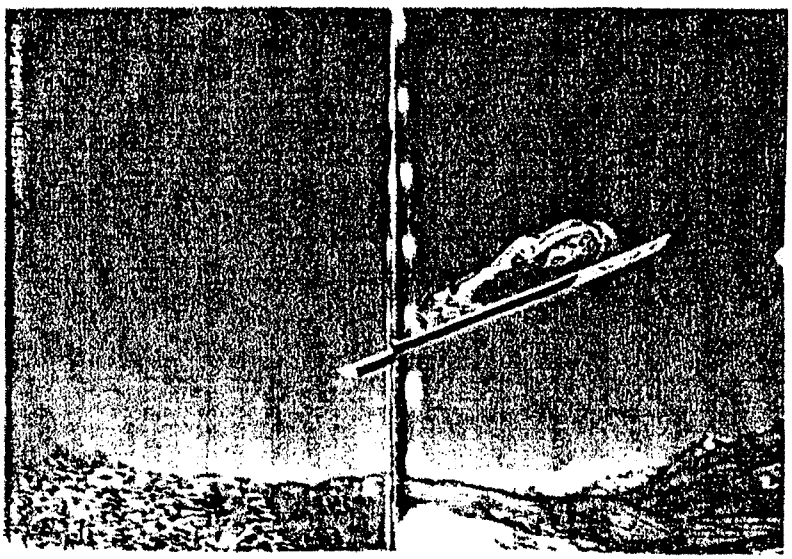
1．概念探求型社会科学習では、「なぜ」をメイン・クエッションとし、そのより科学的な説明を回答として採用し、暫定的な見方・考え方とするが、回答は専門家による研究の成果であることが望ましい。換言すれば、扱う社会的事象・出来事に関するマスコミ等の解説では説明しきれないレベルのものであり、な

おかつ暫定的にせよ験証に耐え得るものが望ましいということである。今回の実験授業においても、新聞やテレビの「イラク攻撃」報道はその量や時間は多いものの、内容的には現象面の解説に偏り、事の本質を突いたものとは言えない。時の報道をチェックしても簡単には説明出来ないレベルの探求こそが求められよう。

2．社会科授業分析の方法、視点にも関係することであるが、印象としての授業分析、感性による授業分析ではなく、本稿でも用いたが「問い－資料－引き出したい知識」という枠組みによる授業事実、あるいは授業構成事実の解明にもとづく分析が必要である。この点に関しては森分孝治氏による林竹二氏の授業「開国」の分析を参照されたい。（森分孝治『現代社会科授業理論』明治図書、1980 年所収）

＜実験授業で使用した資料＞

長野五輪写真集



サマランチ IOC 会長の記者会見記事（信濃毎日新聞 98.2.6 より作成）

「五輪停戦決議順守を」　ＩＯＣ会長会見

国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）のサマランチ会長は六日,長野市の長野五輪メーンプレスセンターで記者会見し,イラクが国連の大量破壊兵器廃棄特別委員会の査察を拒否し,アメリカが武力行使を辞さない構えを見せていることについて「長野五輪の期間中,国連の停戦決議が順守されることを望んでいる」と述べた。

イラク大使と中国高官会談

【北京10日＝藤原秀人】

中国外務省によると、吉佩定外務次官補は十日、イラク危機をめぐり、クウェート、サウジアラビアなど湾岸協力会議（GCC）加盟六カ国とイラクの駐中国大使をそれぞれ外務省に招き、「江沢民国家主席はイラクに危機が日増しに高まっていることを憂慮している」と述べたうえで、「中国は一貫して平和解決を主張しており、武力による危機解決に賛成しない」と伝えた。

吉次官補はまた、「イラクは国連に協力するべきだが、国連も無期限に査察を続けるべきではない。イラクの人道的問題も解決が必要だ」などとも語った。これに対して、GCCの各大使は「中国の客観的で公正な立場を称賛する」と応じ、イラク大使は「中国の平和解決に向けての努力に感謝する」と述べたという。

中国は、餞其琛副首相兼外相が五日、オルブライト米国務長官と電話で会談し、イラクへの武力制裁に反対する立場を改めて伝えるとともに、同日、イラクのアジズ副首相に査察実施について国連と協議するよう求めるメッセージを送るなどの活動をしてきた。

（98.2.11　朝日）

対イラク武力行使への各国の姿勢

●軍事参加

英国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど

●支持または容認表明

ドイツ、ベルギー、オランダ、デンマーク、ノルウェー、スペイン、ポルトガル、イタリア、ポーランド、ハンガリー、チェコ、アルゼンチン、クウェートなど

●反対表明

ロシア、中国

（98.2.13　朝日）

武力行使反対 改めて伝える

米へ中国副首相

【北京5日＝藤原秀人】

新華社電によると、中国の餞其琛副首相兼外相は五日、オルブライト米国務長官と電話で会談し、国連査察の無条件受け入れを拒むイラクへの武力制裁に反対する立場を改めて伝えるとともに、同日、イラクのアジズ副首相に査察実施について国連と協議するよう求めるメッセージを送ったことも表明した。

餞副首相はまた、イラクは査察を全面的に受け入れるべきだとしながらも、「イラクの主権と民族の尊厳は尊重されるべきだ」と語り、米国に慎重な態度をとるよう要請した。

（98・2・6　朝日）

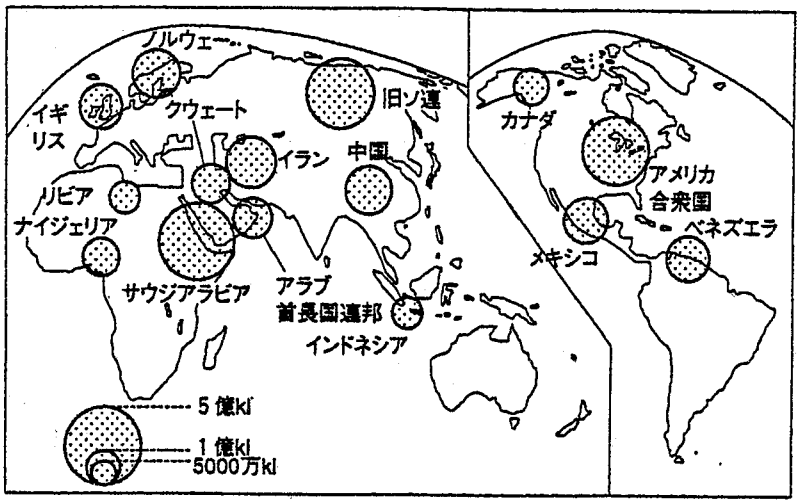
中国、イラク、アメリカ間の外交（98世界年鑑より作成）

西暦(年)	イラク	中国	アメリカ
1996	10月　中国と油田開発と石油分与協定を結ぶ。	10月　イラクと油田開発に関する協定を結ぶ。	
1997	3月　ロシアと南部の油田開発契約を結ぶ。		
	5月　アジズ副首相が北京で江沢民・国家主席らと会談	5月　イラクのアジズ副首相が北京で江沢民・国家主席らと会談 フランスのシラク大統領が中国を訪問。	
	6月　中国と南部の油田開発契約を結ぶ。	6月　イラクとイラク南部の油田開発契約を結ぶ。 9月　カザフスタンの石油会社の株を取得し，パイプラインを作る事業に合意。	
	10月　国連査察団からアメリカ人をはずすことを決定。	10月　ベネズエラの石油採掘権を取得。 江沢民国家主席がアメリカに国賓として招待される。	10月　査察団からアメリカ人を排除するというイラクの決定に対し，武力行使もあることを表明。 中国の江沢民国家主席を国賓として招待。クリントン大統領の中国訪問を了解。
	11月　アメリカ人査察員の入国を拒否。その後アメリカ人を含む査察団を受け入れる。		11月　議会が，イラクの査察妨害問題に対し，武力行使も必要，とする決議をする。
1998	1月　査察団の活動停止を通告。 2月　査察受け入れ	2月　アメリカのイラク攻撃に反対の声明。 6月　アメリカのクリントン大統領が公式訪問。	2月　査察を受け入れなければイラクへの武力行使があることを，イギリス首相とともに表明。 6月　クリントン大統領が中国を公式訪問。

世界の原油産地（日本国勢図会 98/99）

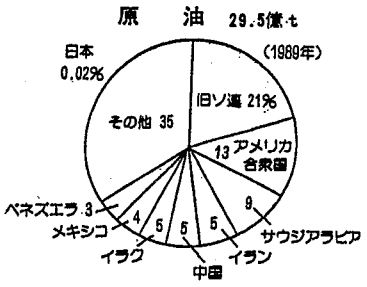
TP 96 年原油の生産量、埋蔵量（世界国勢図会 98/99）
TP 89 年原油の生産量（世界国勢図会 91）

世界の原油産地（1996年）

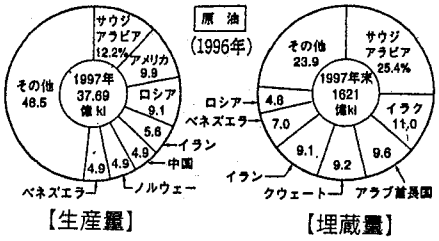


（98/99 日本国勢図会より）

中国の原油生産量、消費量：実績と見通し（アジア・エネルギービジョン：資源エネルギー庁より



（平成４年版　中学校社会科地図 帝国書院）



（98/99 朝日年鑑より）

中国の原油生産量, 原油消費量（実績と見通し）

（単位：万トン）

西暦（年）	原油生産量	原油消費量	差
1985（実績）	12,490	9,510	2,980
1990（実績）	13,831	11,650	2,181
1994（実績）	14,370	14,785	−415
2000（見通し）	15,300	20,400	−5,100
2010（見通し）	19,400	32,580	−13,100

出所：「中国統計年鑑」および「経済社会発展計画」